



ンプレット No.48 1961

働く年少者の明るい生活の設計と その実践のために

(第15回働く年少者の保護運動のしおり)

婦人
38
21

労働省婦人少年局

働く年少者の保護運動

現在、職場に働く年少者の数は 125 万（適用事業場報告）にも及んでいます。

これら働く年少者は現下の生産のにない手であると同時に、また近い将来の中堅産業人としての重要な役割をもっている人たちです。

働く年少者は、身心ともに成長の過程にあり、職場や社会生活の経験も乏しく、不安定で動揺しやすく、したがって、いろいろの問題も起りがちです。

それだけに特別の保護と指導が必要とされます。

保護運動はこのような意味から働く年少者の保護について関係方面の方々の理解と協力を得るため、特別運動を行なうもので、本年は第15回にあたります。

第15回働く年少者の保護運動の目標

働く年少者はいまだ人間としても未熟で、一見おとなであるけれども内容はそれに伴わず、いわゆる「背伸び」の時代です。

精神的にも身体的にも、また知識の面でも伸びようとする強い意欲に満ちています。

この成長期にあたり、年少者の意欲の芽が明るい方向に育つよう周囲のおとなたちの配慮がなされねばなりません。

働く年少者のニード（求めるもの）にこたえ、若い人のもつ将来性を期待し、年少者がそのエネルギーをあるべき好ましい姿で出せるよう、おとなが指導・協力・援助の手をさしのべようとするのです。

これが本年の保護運動の大きなねらいであります。

働く年少者はりつばな人間になりたい意欲にみちています

はじめて職場に出た年少者は、社会人としての仲間入りができたよろこびに胸をふくらませています。

年少者は仕事を少しでも早くのみこんで、職場生活に適応し、よい職業人となろうとするひたむきな気持があります。

このひたむきな気持は、より高い生活をするための努力をうみ出すもとになるものであり、また、将来の堅実な社会生活への基礎ともなるものです。

年少者のこうした特質をじゅうぶん理解し、環境を整えてやることは、おとなの社会的責任ですらあると申せましょう。

働く年少者は目標をたて、その実現に向います

中学卒業後、成人期に至るまでの数カ年は、働く年少者にとって人間としての教養をつみ、また産業人としての能力を磨くための礎石をうつ重要なときです。

年少者はその礎石のうえに立つて、彼ら自身の夢と希望にみちた将来の目標をうちたてます。

そして、その目標は自分自身のものとして、彼らのエネルギーによつて具体的に実現の道へ進んでゆくことになります。

年少者はその実現のために悲しみも苦しみも乗り越えて進んで行こうとします。

年少者が目標をたてるにも、また目標に向つて進む日々の生活の中にも、おとなの暖い思いやりがなければ、その実現はむずかしいものです。

働く年少者は職場や社会に対して不安をいただいています

働く年少者は学校から職場へ、肉身から他人へ、また、地方から都市へと、その変動期に新たな生活環境に適応してゆくための大きな試練にさらされています、が、職場では彼らをどのような気持で受け入れているのでしょうか。

働く年少者は、その職場生活や社会生活において学校や家庭で夢みていたことと現実との差があるため、失望し、将来に対する不安がたかまり初志がゆらぎはじめることも多いようです。

このような場合、これが現実の世の中だと知らされたり、あるいはあきらめさせられるのでは、年少者は正しい成長の方向を見失うことにもなりかねません。

こうした状況の中で、年少者を支える力となるものは、彼ら自身の人生目標であり信条であります、またこれを見守り育てるおとなの存在とその理解であると申せましょう。

目標達成のための年少者の態度

働く年少者は幾多の困難な人生行路にあつて、自らの生活を切り開いてゆくための真しな態度が必要です。

彼らの夢がたんなる空想で終ることのないよう現実の生活に着々と実行してゆくには、まず年少者自らが行き方を考え、それぞれ独自によりよく生きようとする意欲を盛んにして苦しい現実と直面しても、勇気とエネルギーとをもつて解決してゆくようにしなければなりません。

が、こうしたあり方は彼らの謙虚な態度を失ないやすいうちみもあるようです。

年少者は経験も浅く知識もとほしいのですから、まちがつている点があれば改め、より高いものに自分自身を伸ばしてゆくという、すなおな態度がまた必要です。

まわりのおとなたちの考え方

働く年少者のまわりのおとなたちは、年少者が職業人としてもまた社会人としても未完成であり、彼らを完成にまで育成することはおとなの社会的責任であるという考え方にたつてすべてにあたるのが大切です。

● そうでなければ、年少者の多くを中途半端な産業人として一生を終らせたり、あるいは方向をあやまって生涯を過させてしまうことにもなりかねません。したがって、働く年少者と使用者はたゞたんに雇用関係によるのみではなく、使用者は人として人生のあらゆる経験を経た先輩であるということからのつながりも、もつてほしいものです。

▲ * 目標をもたない年少者には目標を。* 生活設計がいまだなされていない年少者には生活設計。についての助言協力を、またその実践にあたっては激励や便宜を与えることなどが望まれます。が、これはあくまで年少者自らの設計によるものでなければならぬし、おとなの命令的な態度はさけなければなりません。

働く年少者を指導しようとするおとなは、どこまでも年少者の気持を尊重しおとなの固定した観念にとらわれず近代的・合理的な考え方の上になつて力をかけてやる態度が望まれます。

参 考 資 料

年少労働者余暇状況実態調査(1960年5月、労働省婦人少年局)より

年少労働者の一般的な希望、及び関心事

- (1) 現在余暇を利用してやりたいと思っていること。「現在の余暇を利用してやりたいと思っていることは何か」という設問に対して、男子の53%、女子の70%のものがそれぞれやりたいことをあげている。

まず、男子では、職場に関する知識を習得したいと考えているものが最も多く、回答者の24%を占め、将来職業人として立つことへの意欲が旺盛であることを示している。

次に多いのが、英語・数学・国語・社会等についての勉学をしたいというもので16%、これに就学ないしは通信教育を受けたいというものの8%を加えると、相当数のものが、基礎的な学問に対する情熱を持っていることが、うかがえる。

これらのほかに多いものはスポーツをやりたいというものの15%、現代の自動車ブームを反映してか、自動車の運転免許をとりたいというものの14%となっている。趣味・教養的なものとしては読書(30%)音楽・絵画・書道等(6%)一般教養(2%)ラジオ・テレビ・機械等の組立(3%)等があげられている。また旅行・ハイキング等(4%)グループ・クラブ・サークル活動(1%)をあげているものもある。

娯楽的なものをあげているものは少なく、囲碁・将棋・トランプ・マージャン等をしたいと回答したものは1%に過ぎない。女子は和・洋裁、料理を習いたいというものが多く65%を占めている。次いで生花・お茶・手芸等のけいこ事をあげているものが16%、勉学・就学・通信教育等の機会を得たいというものが16%、職業知識を得たいというものが10%となっている。

- (2) 現在抱えている関心事

「現在一番興味や関心をもっていることは何か」という問に対して回答をした年少者は男子が47%、女子が50%であった。回答内容の傾向をみると男女ともスポーツに興味や関心をもっているものが多い。ここでも男子では自動車運転(12%)職業知識(12%)ラジオ・テレビ・機械の組立(6%)旅行・ハイキング等に関心を寄せているものが多い。女子では和洋裁・料理等(24%)スポーツ(18%)けいこ事(10%)音楽・絵画・書道等(9%)について映画及び映画俳優(8%)があげられている。

これらの他に男女とも、人生観・社会・政治・経済問題等関心をもっているものがある。

現在余暇を利用してやりたいと思つていること

		計	男	女
調査年少労働者数		4,069	2,310	1,759
回答した年少労働者数		2,452	1,230	1,222
やりたいと思つている内容	就勉職自読文音一和生ラ			
	学・通 信 教 商学	150	96	54
	業 運 標 免 知 許 の 取	344	198	146
	勤 事 業 運 標 免 知 許 の 取	425	301	124
	学・通 信 教 商学	178	175	3
	業 運 標 免 知 許 の 取	77	42	35
	学・通 信 教 商学	17	2	15
	業 運 標 免 知 許 の 取	137	72	65
	学・通 信 教 商学	53	30	23
	業 運 標 免 知 許 の 取	799	4	795
	学・通 信 教 商学	199	—	199
	業 運 標 免 知 許 の 取	40	40	—
	学・通 信 教 商学	246	186	60
	業 運 標 免 知 許 の 取	84	46	38
	学・通 信 教 商学	4	3	1
	業 運 標 免 知 許 の 取	11	11	—
	学・通 信 教 商学	15	12	3
	業 運 標 免 知 許 の 取	19	13	6
	学・通 信 教 商学	5	4	1
	業 運 標 免 知 許 の 取	19	9	10